

修正イーベル法の目的を説明し、調査の協力は自由意志であることを口頭で説明し、回答記入をもって協力の意思表示とした。また、本調査は九州大学医系地区部局研究倫理審査委員会の審査によって許可された。(許可番号 21-60)。

### 3. 研究結果

#### 1) 対象

対象は全国の保健師教育課程の看護教育機関の協力が得られた学生 194 名であり、教育課程内訳は大学 2 校、短期大学及び専修学校（1 年課程）3 校、専修大学（統合カリキュラム）1 校]であった。

#### 2) 第 95 回保健師国家試験問題の分析結果

RDI が 0.65 以上は、0.55 未満の問題を表 1 に示した。0.65 以上は「簡単すぎる」、0.55 未満は「難しすぎる」可能性がある」と判断し、各設問について、RDI が高すぎると判断した (RDI=0.65) を抽出し、個々の設問について、メンバーで検討した。

(1) RDI は午前問題において 0.64、午後問題は 0.66 であった。午前、午後とも簡単すぎると判断する 0.65 の近似値であり、全般的に簡単な問題の出題であったと考える。

(2) 問題を判定し、領域別の問題数について検討を行った。全 105 問中、地域看護学Ⅱ領域が 31 問 29.5%と最も多く、ついで疫学・保健統計領域が 24 問 22.9%、地域看護学Ⅲ領域が 20 問 19.0%、地域看護学Ⅳ領域が 15 問 14.3%、保健福祉行政論領域が 11 問 10.5%、最も少ないのが地域看護学Ⅰ領域で 4 問 3.8%であった。

(3) 領域別に RDI の検討を行った。地域看護学Ⅰ領域の RDI は 0.62、地域看護学Ⅱ領域の RDI は 0.68、地域看護学Ⅲ領域の RDI は 0.66、地域看護学Ⅳ領域の RDI は 0.66、保健福祉行政論領域の RDI は 0.68、疫学・保健統計領域の RDI は 0.61 となり、地域看護学Ⅰ及び疫学・保健統計領域の RDI を判断すると「やや難しい」傾向にあった。逆に、保健師の専門領域に関する問題が「簡単すぎる」という傾向であった。

(4)問題ごとの RDI の検討を行った。RDI が特に高い 0.65 以上の「簡単すぎる」問題は、午前 34 問、午後 36 問であった。逆に RDI が 0.55 未満と「難しすぎる」問題は 5 問であった。

### 3) 問題の適切性

適切性に課題があると判断した問題は、午前 14 問、午後 5 問あった。これらの問題は、RDI の平均が 0.67 と高値であり、保健師の国家試験としては易しすぎるのではないかと判断した。さらにこれらの問題を領域別に概観すると、地域看護学Ⅰ領域が 1 問、地域看護学Ⅱ領域が 10 問、地域看護学Ⅲ領域が 2 問、保健福祉行政論及び疫学・保健統計領域が各 1 問、地域看護学Ⅲ領域はなく、地域看護学Ⅱ領域からの出題が多かった。

### 4) カテゴリー別の問題課題の検討

問題毎に出題基準との照合し、どのような点に課題があるか検討した。

「知識の範囲が保健師教育の内容でなく看護師教育の内容があれば良い」「一般的な生活経験から常識的に考えられる」「適切でないとの設問に対し、文面からその正解が導ける」等の意見が出された。

その結果をカテゴリー A・B・C 別に表に示した。

A. 看護学の専門知識を有さなくても解答できると考えられる設問 5 問 (午前 4, 午前 7, 午前 14, 午前 18, 午後 4)
B. 看護師の知識を有すれば解答できる設問 6 問 (午前 13, 午前 27, 午前 38, 午後 3, 午後 6, 午後 37)
C. 保健師の国家試験問題として簡単すぎる設問 5 問 (午前 20, 午前 41, 午前 42, 午前 43, 午後 1)

(1) 母子に関する問題（午前 4・午前 7・午前 14）は、子育ての経験や自己の生活体験から特に看護学の知識を持たなくても容易に解答が導き出せる。また、訪問記録（午前 18）は個人情報保護法の観点から考えると常識的な内容である。生活設計（午後 4）は成人期以降の人であれば今後の生活に関して容易に想像可能である。

このような理由から、看護や医学の知識がない人でも解答が可能と判断したが、これらの問題は問題の難易度レベルに課題があると考えられる。

(2) 介護保険制度（午前 27）、公衆衛生活動（午前 38）、1歳6か月児の標準的な発達（午後 6）に関しては、単純に知識を問う問題である。その問われた知識は保健師課程で新たに学習する知識ではなく、看護師課程で既に学習したあるいは学習する知識である。看護師の知識は、保健師の知識を学ぶ上で基礎となるため重要ではあるが、出題形式に工夫が必要と判断した。

病気対処行動に関する問題（午後 3）に関しては、病気対処行動という言葉そのものには馴染みがないが、一般の生活者でも容易にその意味することの見当がつく。また、専門用語の意味については看護師課程で学習しており、その内容が判断出来れば、容易に解答が導き出せる。

潰瘍性大腸炎（午前 13）に関して、潰瘍性大腸炎の看護の視点については看護師課程で学習している。この設問は、医療施設を退院するときに看護師が生活指導として行う内容を問うている。保健師の国家試験問題としては、難病に対する保健師の保健指導に関する出題が必要である。

要介護者に対する支援は（午後 37）、在宅看護論の領域で当然学習している範囲なので、出題の支援内容については訪問看護師が判断できる内容である。このような理由から、看護師の知識があれば解答が可能と判断した。

(3) 虐待事例に関する問題は（午前 20）、関係者間の連携は保健師の能力として必要なので、保健師の国家試験問題としては妥当な題材である。しかし、設問を読み進めるうちに、常識的な判断で正答が簡単に導き出せた。さらに、出題の意図と選択肢が一致していない可能性もあると考えた。

母子の状況設定問題（午前 41～43）は、妊娠期・産褥期・乳児期各期での保健師の関わりを問うている問題である。各期に合わせた保健指導の内容を出題しているが、問題文との関連性や情報不足などがあり、保健師の「個別事例に関する指導」でどのような能力を問いたいのか不明瞭である。そのため、看護師が求められている保健指導と大差ない設問になっている。

地域診断の知識を問う問題（午後 1）であるが、選択肢の内容は平易であり、容易に解答が可能である。このような理由から、保健師の専門性を問う問題としては簡単すぎると判断した。

#### 4. 考察

保健師国家試験の質の向上に向けて、毎年国家試験終了直後に出題された問題を検討し、その結果を集約、検討してきた。これまでは、テキスト内容や実習での体験等からその出題は適切かどうかを主観的な見解を中心にまとめてきた。今回、修正イーベル法を活用し、より客観的に国家試験を検討することになり、保健師の国家試験問題の適切性を考えることができた。

RDI の結果に示されたが、第 95 回保健師国家試験は全般的に簡単であった。国家試験の問題が平易であると学生に認識されると、十分な学習が行われなくなることも考えられ、結果的に保健師の質が低下することに繋がるのではないかと懸念した。

国家試験会場において、平気で「保健師は合格したらもうけもの」と発言している学生が

いると聞き及ぶ。このような安易な気持ちで受験する学生が多くなっているといわれる一方で、さらに問題までもが簡単であれば「この程度で良い」という考えを助長することになり、ますます保健師の質を低下することを加速するのではないかという危機感を持った。このような問題を回避するためにも、保健師としての専門性をしっかり判定できるような国家試験問題が出題されることが重要であると考える。

RDI が低スコアである問題を検討した結果、保健師の専門知識や技術が無くても解ける問題が 15% と決して低くない現状であった。保健師の基盤には看護の基本知識が必要であるが、看護の知識を基盤とした保健師の専門性を発揮するために必要な独自の知識は何か、その相違を明確にしていく必要がある。

ところで、保健師教育課程の領域別に結果を検討すると、地域看護学Ⅱ及び保健福祉行政論領域の RDI が 0.68 と高かった。特に、地域看護学Ⅱ領域は個別の支援にとどまった出題である感がある。国家試験の出題基準に地域看護学Ⅱ領域は「地域住民への直接的な支援技術を地域・集団特性をふまえた対象別保健活動」と掲げられているように、単純な個別対応ではなく、地域・集団の特性をふまえた出題になると、より看護師に求められることとの相違が明確に出来るのではないかと考える。

そのためには、国家試験問題プール制を教員個々が理解し、保健師として質を担保するための問題を自ら作成していく努力が必要となる。

平成 20 年度より問題作成の研修会を開催することによって、教員の国家試験に対する関心の高まりと問題作成が国家試験だけでなく日頃の教育内容にも影響するということが教員に理解されてきた。実際に問題作成する際は、戸惑いが大きく良質な問題を作成するためには、作成した問題への助言や教員間での意見交換などその問題を十分に吟味すること、そして何より、保健師の専門性とは何か、それはどのような形で問うことが可能なのかを今後も検討していく必要があると考える。

## 5. 結論

修正イーベル法による問題分析の結果、保健師の専門知識がなくても解ける問題が多いことが分かった。その背景には、保健師の専門性の不明確さがある。保健師に必要な専門知識の精選と必要とされる地域住民への直接的な支援技術とは何か、地域・集団特性をふまえた保健活動の可視化が早急に求められる。そのために、まず問題作成の研修会は有効であるが、ステップアップして教員自ら問題作成出来る能力獲得が必要である。そして、問題作成能力を保持している教員が集まり、専門知識の精選、必要とされる地域住民へ支援技術の精選、地域・集団特性をふまえた保健活動の体系化を行うことが重要である。

表1. RDIが0.65以上、RDIが0.55以下の問題

RDI 0.65以上の問題(70)			
【午前】		【午後】	
問1	0.74	問1	0.73
問2	0.74	問6	0.72
問26	0.74	問2	0.71
問39	0.74	問4	0.71
問8	0.72	問3	0.71
問40	0.72	問13	0.71
問9	0.71	問30	0.70
問18	0.71	問37	0.70
問38	0.70	問19	0.70
問7	0.70	問20	0.69
問47	0.70	問12	0.69
問4	0.70	問50	0.69
問14	0.70	問5	0.69
問41	0.69	問34	0.69
問25	0.69	問38	0.69
問20	0.69	問10	0.68
問48	0.68	問17	0.68
問27	0.68	問36	0.68
問43	0.68	問31	0.68
問34	0.68	問35	0.68
問21	0.67	問28	0.68
問49	0.67	問16	0.68
問6	0.67	問24	0.67
問5	0.67	問39	0.67
問37	0.66	問46	0.67
問24	0.66	問9	0.67
問17	0.66	問29	0.67
問28	0.66	問25	0.67
問10	0.66	問47	0.66
問42	0.65	問15	0.66
問12	0.65	問49	0.66
問11	0.65	問22	0.66
問22	0.65	問18	0.66
問13	0.65	問43	0.65
		問41	0.65
		問45	0.65

RDI 0.55以下の問題(4)	
【午前】	
問46	0.54
問29	0.51
問3	0.47
問30	0.47

- |   |                      |
|---|----------------------|
| ① | 看護学の知識を有さずとも解答できる問題  |
| ② | 保健師の国家試験としては簡単すぎる問題  |
| ③ | 看護学の専門知識を有すれば解答できる問題 |

表 2. 第 95 回保健師国家試験問題 修正イーベル法による分析結果

I. 看護学の専門的知識を有さなくても解答できると考えられる設問

[午前 4]

第 1 子が生まれた家族の行動で適切でないのはどれか。

1. 生活のあり方を再構築する。
2. 祖父母と孫との関係を調整する。
3. 第 1 子出生前の夫婦各々の役割を固持する。
4. 子どもを通じて近所の同年代の親達と付き合う。

【出題基準との照合】

領域 地域看護学 II

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目 6 母子保健指導

中項目 C 母性の生活と保健指導のおもな対象範囲・内容

小項目 c) 育児期

修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	161	0.70
人数	62	12	48	23	6	4	3	3		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は 151 人(93.8%)、難易度を平易ととらえている学生は 114 人(70.8%)であった。期待正答率(RDI)は 0.7 と高い。

【検討結果】

- ・ 選択肢 1. 2. 4. は、家族の行動をポジティブに変化するよう調整する方向の選択肢であるのに対し、選択肢 3 はそれまでの役割を各々が固持するという行動変化を求めない選択肢である。固持すれぱうまくいかなくなるのは明白である。このような判断は社会常識レベルの考え方で解答できると考える。つまり、看護学の専門的知識を有さなくても解答できる設問である。
- ・ 保健師としての専門性を問うならば、家族の機能の変化をアセスメントする能力を問う設問にすることが望ましい。



## [午前7]

育児相談で7か月児の母親から最近夜泣きが始まったと相談を受けた。原因で考えられないのはどれか。

1. 皮膚の痒み
2. 体重の増え過ぎ
3. 衣服の着せ過ぎ
4. 生活リズムの乱れ

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目6 母子保健指導

中項目B 乳幼児期の成長発達と生活の特徴

小項目a) 乳幼児の発達等

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.70
人数	68	15	35	31	4	2	4	3		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は153人(94.4%)、難易度を平易ととらえている学生は105人(64.8%)であった。期待正答率(RDI)は0.7と高い。

### 【検討結果】

- ・「夜泣き」の原因は、児の日常生活を観察することで把握できることが多い。選択肢1. 3. 4は日常生活を観察する項目であるのに対し、選択肢「2. 体重の増え過ぎ」は身体発育の観察項目であり、明らかに「夜泣き」の原因になるとは考えられない項目である。このような判断は社会常識レベルの考え方で解答できると考える。つまり、看護学の専門的知識を有さなくても解答できる設問である。
- ・保健師としての専門性を問うならば、夜泣きが起こる原因について、観察行動の優先度を問う設問にすることが望ましい。

## [午前 14]

歯科保健指導の対象者と内容の組合せで正しいのはどれか。

1. 妊産婦 —— 歯の治療は妊娠初期に行う。
2. 幼 児 —— 仕上げ磨きは必要ない。
3. 学 童 —— フッ素配合歯磨剤の使用は控える。
4. 成 人 —— 歯周病予防のため禁煙を勧める。

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目 13 歯科保健指導

中項目 B 生涯を通じた歯科保健

小項目 a) 各発達段階における健康レベル別歯科保健サービス

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.70
人数	61	19	32	39	5	0	5	1		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は 156 人(96.3%)、難易度を平易ととらえている学生は 93 人(57.4%)であった。期待正答率(RDI)は 0.7 と高い。

### 【検討結果】

- ・ 選択肢「1. 歯の治療は妊娠初期に行う」は「妊娠初期」と限定しており、選択肢「2. 仕上げ磨きは必要ない」は「必要ない」と断定している。また選択肢「3. フッ素配合歯磨剤の使用は控える」は否定型の表現である。これら選択肢の内容は、間違っていると簡単に判断できる内容である。このような判断は社会常識レベルの考え方で解答できると考える。つまり、看護学の専門的知識を有さなくても解答できる設問である。
- ・ 歯科保健活動は保健師のプライマリーレベルでは必修活動であり、関わる頻度は高いので、保健師としての専門性を問うならば、ライフステージ毎に、住民自ら行なえる歯科保健の内容を問う推定型の設問とすることが望ましい。

## [午前 18]

市町村保健師の訪問記録で適切なのはどれか。

1. 略語を用いて簡素化する。
2. 記載内容は自由裁量とする。
3. 担当の保健師が個別に保管する。
4. 関係機関と連絡・調整した内容を記載する。

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目 3 家庭訪問

中項目 C おすすめ方

小項目 d) 訪問記録, 報告

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	161	0.71
人数	67	18	32	38	3	1	0	2		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は 158 人(98.1%)、難易度を平易ととらえている学生は 100 人(62.1%)であった。期待正答率(RDI)は 0.71 と高い。

### 【検討結果】

- ・選択肢「1. 略語を用いて簡素化する」は合意があれば略語を用いることは可能であるが、合意なしに自己判断で略せば誤解を生む可能性がある。選択肢「2. 記載内容は自由裁量とする」は公的な記録物として自由な裁量はできない。選択肢「3. 担当の保健師が個別に保管する」も個人情報を取り扱う記録物の保管方法としては明らかに間違いである。このような判断は社会常識レベルの考え方で解答できると考える。つまり、看護学の専門的知識を有さなくても解答できる設問である。
- ・個人情報の保護や公的文書の取り扱いに関する知識を有すれば、解答することが可能であり、保健師としての専門性を問うならば、保健師の記録に特化した文書の取り扱いに関する設問にすることが望ましい。

## [午後4]

50歳代の夫婦を対象に退職後の生活設計のための教室を実施することとなった。  
教室の内容で優先度が高いのはどれか。

1. 転倒防止の知識
2. 車椅子の扱い方
3. う歯予防の食事習慣
4. ライフサイクルの変化と対応

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目7 成人保健指導

中項目B 成人期の生活と保健指導

小項目a) 成人各期の特徴、健康問題アセスメント、保健指導

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	161	0.71
人数	69	10	43	31	4	1	3	0		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は157人(97.5%)、難易度を平易ととらえている学生は113人(70.2%)であった。期待正答率(RDI)は0.71と高い。

### 【検討結果】

- ・「50歳代」を対象とする「退職後の生活設計のための教室」という設定は、ポピュレーションアプローチであるので、選択肢「1. 転倒防止の知識」と選択肢「2. 車椅子の扱い方」は、容易に除外できる。また、選択肢「3. う歯予防の食事習慣」は中高年の健康課題でないことは明らかである。このような選択肢は社会常識レベルの考え方で判断でき、正解を導くことができる。つまり、看護学の専門的知識を有さなくても解答できる設問である。
- ・保健師としての専門性を問うならば、成人期の集団保健指導として、教室の企画・運営の方法・内容を問う設問にすることが望ましい。

## Ⅱ. 看護師の基本的知識を有すれば解答できる設問

### [午前 13]

32歳の男性。会社員。潰瘍性大腸炎と診断され相談目的で保健所に来所した。  
この男性への日常生活の保健指導で適切なのはどれか。

1. 食事は1日5回に分ける。
2. 食事はできる限り低脂肪食とする。
3. 休日はできる限り安静に過ごす。
4. 薬の飲み忘れがあった場合は次に2回分を服用する。

#### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目7 成人保健指導

中項目B 成人期の生活と保健指導

小項目b) おもな疾病

#### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
人数	32	20	32	51	14	3	3	6	161	0.65

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生が149人(92.5%)、難易度を平易ととらえている学生が67人(41.6%)であった。期待正答率(RDI)は0.65とやや高い。

#### 【検討結果】

- ・ 選択肢は医療施設を退院するときに看護師が日常生活指導をする内容であり、看護学の専門的知識を有すれば解答できる設問である。
- ・ 保健師の知識を問うならば、利用できる制度や社会資源を問う設問にすることが望ましい。

## [午前 27]

要介護認定で正しいのはどれか。

1. 保健所が窓口である。
2. 申請に本人の費用負担はない。
3. 要介護度は2年間変更できない。
4. 申請時に主治医の意見書が必須である。

### 【出題基準との照合】

領域 保健医療福祉行政論

目標 1 保健医療福祉行政の基礎的知識および、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や保健医療福祉サービスを評価し、調整する基礎的な能力と知識を問う。

大項目 3 地域保健医療福祉行政と保健師活動

中項目 F 介護保険制度

小項目 a) 法体系

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
人数	51	26	29	40	5	3	3	4	161	0.68

【傾向】 問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は 151 人 (93.8%)、難易度を平易ととらえている学生は 83 人 (51.6%) であった。期待正解率 (RDI) は 0.68 とやや高い。

### 【検討結果】

- ・ 設問内容は介護保険制度の要介護認定に関する基礎的知識であり、看護師の専門的知識を有すれば解答できる設問である。
- ・ 保健師の知識問うならば、生活機能評価・特定高齢者・地域包括支援センター・介護予防事業に関する設問にすることが望ましい。あるいは、事例を用いて、住民が介護保険のサービスを適切に利用できるような、評価、調整する保健師としての基礎的な能力を問う設問にすることが望ましい。

## [午前38]

公衆衛生活動で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 経済効率を優先する。
2. 感染症対策は含まれない。
3. 地域住民の健康レベルの向上を目指す。
4. 主に個人の努力によって問題解決を図る。
5. 日本国憲法に基づき国の義務とされている。

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学 I

目標 1 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う。

大項目 1 地域看護学の成立基盤

中項目 B 地域看護活動の理念・目的

小項目 a) 公衆衛生看護活動の理念・目的

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.70
人数	69	14	31	36	8	0	2	2		

【傾向】＝問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は158人(97.5%)、難易度を平易ととらえている学生は100人(61.7%)であった。期待正答率(RDI)は0.70と高い。

### 【検討結果】

- ・公衆衛生活動は、公衆衛生看護活動の基本として必要な知識であり、重要な内容である。しかし、「公衆衛生活動」という意味は容易に理解でき、解答が導きだせる。さらに、看護師国家試験の出題基準にもあることから、看護師の専門的知識を有すれば解答できる設問である。
- ・保健師の知識を問うならば、「公衆衛生看護活動」を問う設問にすることが望ましい。

### [午後 3]

病気対処行動はどれか。

1. 健康のため毎朝乾布摩擦をする。
2. 腰痛のため整形外科を受診する。
3. 肥満予防のため毎日 30 分散歩する。
4. 早期発見のためがん検診を毎年受ける。

#### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学 I

目標 2 地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と、健康課題への個人ならびに地域組織の対処行動についての理解力を問う。

大項目 4 地域の人々の保健関連行動

中項目 A 個人の健康課題への対処行動

小項目 f) 病気への対処行動

#### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.71
人数	74	17	30	29	5	2	5	0		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は 155 人 (95.7%)、難易度を平易ととらえている学生は 106 人 (65.4%) であった。期待正答率 (RDI) は 0.71 と高い。

#### 【検討結果】

- ・「病気対処行動」については、保健師国家試験出題基準にもあるが、看護師国家試験としても重要な内容である。「病気対処行動」という意味は容易に理解でき、解答が導きだせる。設問は個人レベルでの「病気対処行動」を問うており、看護師の専門的知識を有すれば解答できる設問である。
- ・保健師の知識を問うならば、地域の生活習慣や生活様式と関連づけて、病気対処行動をアセスメントする設問とすることが望ましい。



## [午後6]

1歳6か月児の標準的な発達はどれか。

1. 二語文を話す。
2. 三輪車をこぐ。
3. ボタンをかける。
4. スプーンを持って食べようとする。

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目6 母子保健指導

中項目B 乳幼児期の成長発達と生活の特徴

小項目a) 乳幼児の発達、生活・しつけ、保健指導

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.72
人数	85	17	26	24	4	1	1	4		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生が156人(96.3%)、難易度を平易ととらえている学生が112人(69.1%)であった。期待正答率(RDI)は0.72と高い。

### 【検討結果】

- ・設問は「1歳6か月児の標準的な発達」を問うているが、選択肢に示されている内容は、看護師国家試験でもよく出題されている内容である。つまり、看護師の専門的知識を有すれば解答できる設問である。
- ・乳幼児の発達については必要な知識であるが、保健師としての必要な専門的知識を問うならば、タキソミーをあげて、健康問題の早期発見のための観察行動を問う設問にすることが望ましい。

## [午後 37]

Aさん。69歳の女性。75歳の夫と2人暮らし。63歳から高血圧で服薬治療を受けている。夫は脳梗塞で左片麻痺があり、要介護3で、訪問リハビリテーションと通所介護との利用を開始している。市主催の地区健康相談会に来所したAさんは「先週、私は病院を受診したが、医師から血圧は安定していると言われた。しかし、夜眠れないことも多い。夫の世話で時々息が詰まりそう」と保健師に訴えた。

Aさんは「今は家事と夫の世話で忙しく、私だけが大変な気がする。夫は通所介護でお友達ができて楽しそう」と話した。

対応で適切なのはどれか。

1. 夫の通所介護に同行するよう勧める。
2. 自由な時間を作れるよう一緒に考える。
3. Aさんも介護認定を受けるよう勧める。
4. Aさんだけが大変なわけではないと話す。

### 【出題基準との照合】

領域：地域看護学Ⅱ

目標：あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目 8 高齢者保健指導

中項目 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導

小項目 a) 要支援・要介護高齢者

### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	161	0.70
人数	55	17	43	39	4	3	0	0		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は158人(98.1%)、難易度を平易ととらえている学生は101人(62.7%)であった。期待正答率(RDI)は0.7と高い。

### 【検討結果】

- ・要介護者を抱える家族の問題は、高齢者保健指導の重要課題である。設問文から、介護疲れの訴えへの対応が焦点であることが分かる。選択肢「1. 夫の通所介護に同行するよう勧める」は疲れているAさんには、さらに負担となる可能性があり、不適切な対応であり、選択肢「3. Aさんも介護認定を受けるよう勧める」は、Aさんは血圧が高いが安定しており、不眠だけでは介護認定の対象でないことが容易に判断できる。選択肢「4. Aさんだけが大変なわけではないと話す」も、Aさんの気持ちを受け入れない対応であり、看護者として不適切な対応であると判断できる。つまり、看護師の専門的知識を有すれば解答できる設問である。
- ・保健師の専門的知識を問う設問としては、介護者としての支援だけでなく、介護予防の視点を含めた選択肢にすることが望ましい。

### Ⅲ. 保健師の国家試験問題としては簡単すぎる設問

#### [午前 20]

市では児童虐待事例が発生したことをきっかけに、児童虐待防止のための関係者間の連携を強化することとなった。

適切な取り組みはどれか。

1. 関係者による会議を定期的を開催する。
2. 虐待の疑いの段階では情報の共有は行わない。
3. 支援目標は会議の協議を経ないと変更できない。
4. 事例のマネジメントは保健所が中心となって行う。

#### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅲ

目標 2 地域の人々がみずからの健康問題を意識し、健康の保持増進をはかり、社会資源を活用できるようにするために、グループを育成し、活動を支援していくための基礎的能力を問う。また、地域ケアシステムの充実をはかることができる基礎的能力を問う。

大項目 6 地域ケアシステムづくり

中項目 B ネットワークの形成と地域ケアコーディネーション

小項目 d) 関係機関、関係職種との連携

#### 修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
人数	48	15	42	46	7	2	0	1	161	0.69

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえる学生は158人(98.1%)、難易度を平易ととらえている学生は92人(57.1%)であった。期待正答率(RDI)は0.69とやや高い。

#### 【検討結果】

- ・ 選択肢「2. 虐待の疑いの段階では情報の共有は行わない」と選択肢「3. 支援目標は会議の協議を経ないと変更できない」は否定型の表現を用いているため、容易に除外できる。選択肢「4. 事例のマネジメントは保健所が中心となって行う」は、虐待防止の窓口が児童相談所であることは知られていることである。また、これらの選択肢は、虐待への対応についてであり、「虐待防止のための連携強化」についての選択肢ではない。これらの考え方に基くと保健師の国家試験問題としては簡単すぎる設問である。
- ・ 連携強化のための取り組みを問うているが、選択肢1は通常取り組み内容であり、保健師の専門的知識を問うならば、連携強化のプロセスや具体的方法を問う設問にすることが望ましい。

## [午前 4 1]

Aさん。18歳の女性。24歳の夫と2人暮らし。妊娠14週で母子健康手帳をもらいに市の保健センターに来所した。Aさんは子どもが生まれてくるのを楽しみにしているが、妊娠・出産・育児についての情報はほとんど知らない様子であった。Aさんの両親は結婚に反対し、今はほとんど連絡を取り合っていない。

保健師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 妊産婦健康診査について説明する。
2. 子育て支援事業について説明する。
3. 家庭環境はプライバシーに配慮して尋ねない。
4. 出産時に実家の母に付き添いをしてもらうよう勧める。

### 【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目 6 母子保健指導

中項目 C 母性の生活と保健指導のおもな対象範囲・内容

小項目 b) 妊産褥期

修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.69
人数	55	19	40	36	4	0	3	5		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は154人(95.1%)であるが、難易度を平易ととらえている学生は95人(58.6%)であった。期待正答率(RDI)は0.69とやや高い。

### 【検討結果】

- ・ 選択肢「1. 妊産婦健康診査について説明する」は適切な対応であるが、母性看護学の知識で判断でき、選択肢「2. 子育て支援事業について説明する」は、妊娠14週の段階で産後の子育て支援の説明が早すぎることは、容易に判断できる。選択肢「3. 家庭環境はプライバシーに配慮して尋ねない」は保健師活動の中で家庭環境の把握は必要な情報であり、尋ねないということは考えにくい。選択肢「4. 出産時に実家の母に付き添いをしてもらうよう勧める」は、事前情報にあるような親との関係性を考えれば不適切な指導であることが明らかである。つまり、選択肢の内容が看護師の知識を有すれば解答でき、保健師の国家試験としては簡単すぎる設問である。
- ・ 保健師の知識を問うならば、窓口での若年妊婦に対する保健指導の内容やその優先度を問う設問にすることが望ましい。